

令和3年度 自己評価表

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	生徒の個性・能力の伸長をはかりながら、確かな学力と豊かな人間性の涵養に努め、地域に信頼され地域に貢献する人材を育成する。	今年度の重点目標	1 確かな学力の育成 2 豊かな人間性の育成 3 自己実現のための進路指導の充実 4 地域との連携による学校づくり
-------------------	--------------------------------------------------------------	----------	--------------------------------------------------------------------

年度当初				評価結果()月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 確かな学力の育成	○学力の向上 ・基礎的な知識および技能の向上 ・主体的に学習に取り組む態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングに関する研修を全教科で取り組んでいる。 ・ICT機器を活用した授業等は取り組んでいる。(84%) ・評価方法を研究するとともに、更なる授業改善を推進する必要がある。 ・高度資格取得の合格率は66%である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的、計画的に授業改善を推進し、生徒が主体的に学習に取り組んでいる。 ・系列の特色化と資格取得を促進し、高度資格試験合格率70%以上 ・SDGsの視点を導入し、探究学習を深化させ課題解決能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科一人以上がアクティブ・ラーニングの公開授業及びルーブリック評価を実施 ・外部講師招聘による授業研究会を実施 ・ICT機器の授業活用が教員全体の85%以上を目指し、GoogleWorkspaceの活用、BYAD対応など研修を実施 ・Find!アクティブラーナー活用による授業改善の更なる促進 ・各系列ごと学校独自事業の充実、特別支援学校との交流 ・高度資格試験(英検2級、ビジネス文書1級等)の受験を促し、合格に向けてのサポート 			
	○思考力、判断力、表現力の更なる向上			<ul style="list-style-type: none"> ・地域経済分析システム(RESAS)を活用した「新商都米子まちづくり2021」と「地方創生アイデアコンテスト」及び「高校生ビジネスグランプリ」へ応募し、成果を米子市に提案 			
2 豊かな人間性の育成	○基本的生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者数は前年比14%減少した。遅刻確認票の効果がみられるが、更に規範意識を向上させる必要がある。より一層主体的に活動する意欲を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者数が前年の15%減少 ・規範意識・安全意識の向上と掃除の徹底 ・自転車ヘルメット着用率50%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻確認票による遅刻指導の更なる強化 ・米子高生としての自覚を促す行動の啓発 ・SNS対策を中心とするデジタル・シティズンシップ教育の推進 ・自転車ヘルメット着用推進モデル校として、安全意識向上を図るため機会を捉えて啓発・指導 ・掃除の徹底と整理・整頓の推進、あいさつの励行 			
	○生徒の主体的活動の推進(国際交流・部活動)	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動ゼロは達成できなかったが、殆どの生徒が規範意識を持って生活している。 ・自転車ヘルメット着用は15%である。 ・外部機関(SSW、児相、医療機関、要対協)との連携を密にし、早期に対応することができている。 ・学校生活アンケート(1月)で自己肯定感を認める生徒は59%である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の各種活動への積極的参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部による各種自主的活動の充実 ・マスコットキャラクターの制作 ・部活指導員・外部指導者の活用による部活指導の充実と時間外業務削減(月45時間以下、年間360時間以下の遵守) ・アメリカ・韓国の姉妹校とのオンライン交流 ・生徒会による「はるかのひまわり絆プロジェクト」の実施 			
	○支援が必要な生徒への援助		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒情報を共有し適切なサポートができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究会による情報共有と委員会等による適切な対応 			
	○キャリア教育の発展	<ul style="list-style-type: none"> ・産業社会と人間・テーマ学習(R2)が進路実現に反映されている。 ・大学進学者が減少 H30年度25名(9名) R1年度20名(3名) R2年度16名(3名) ()は国公立 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導力向上と外部指導者の活用 ・生徒が進路目標を明確にし、その実現に向けて努力する態度の確立 ・大学進学20名、(内、国公立大学5名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間にSDGsの視点を導入し、系統的なキャリア教育の再構築 ・キャリアパスポートを活用し、自らの成長を実感できる取り組み ・学習成果発表会における他校生徒との連携 ・教員研修と進路希望検討会を充実させ、探究活動を活用した進学・就職への対応 ・看護・医療系進学希望者の職場体験の実施と進路実現 			
4 地域との連携による学校づくり	○地域のニーズに応じた地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携によって学校への信頼、期待が高まっている。 ・学校運営協議会では熟議を重ね、生徒会とともに「はるかのひまわり絆プロジェクト」に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術活動の拠点校として、地域のニーズに積極的に応える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動における各種イベントの開催と参加 ・学校運営協議会を活用した地域連携活動の推進 ・中学校アクティブ・ラーニング出前授業、地域の教育活動拠点としての生徒活動の活発化 ・「花壇用草花植栽活動」「イチゴ栽培・収穫」「プログラミング教室」による地域貢献の推進 			
	○積極的な社会参画と情報発信		<ul style="list-style-type: none"> ・社会につながる教育活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「高校生出前キャリアガイダンス」の充実 ・総合美術展の開催による情報発信 			

評価基準 A:目的・目標を達成した B:ほぼ計画(予定)どおり推進している C:取り組みとしてはやや遅れている(取組は進めたが、成果が出ていない) D:一層の(新たな)取組が必要